

『ブレイジングシートのろう付熱サイクル後のシェンク式疲労試験結果』

- ①心材単体およびろう材/心材/犠牲材の構成材では引張強さの増加に伴い、両者間でやや勾配が異なるものの疲労限の増加が認められる。
- ②一方、ろう材/心材の構成材では、3003心材と3N33心材間では差異がみられない結果となった。しかし、前2者の結果からはろう材層の影響が支配的であった可能性は低く、3N33心材部の値が何らかの要因で低くなった可能性も考えられた。
- ③ろう付熱サイクル後のろう材表面の熔融凝固面の粗度の影響等、今後の課題とされた。

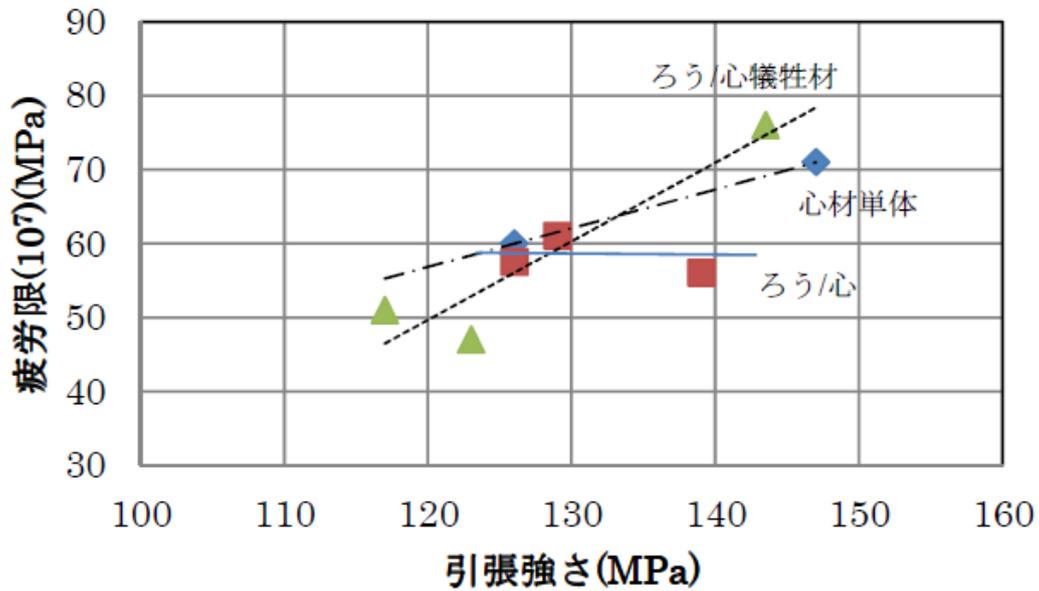


Fig.1 各構成によるブレイジングシート材の引張強さと疲労限の関係